

# ゲキ部物語

作

佐藤かつら・古屋仁成

盛岡市立高校演劇部

## 登場人物

シンコ

モッチ

芝美

まりな

トーケイ

山本先生

生徒1

生徒2

※のセリフは、その直前のセリフと同時に重なるように。

## 第一場

学校の終業のチャイム、生徒達のざわつく音。

幕が開くとそこは演劇部の部室。

黒板があり、机といすもいくつか。

シンコ、モッチ、まりなの三人。

モッチとまりなは隠れんぼでもしているのか？

そこに芝美が入ってくる。

芝美

（イスに座ろうとして）きゃっ。：まりなさん、何してるんですか。

まりな

静かに！ 今かくれんぼしてるのよ。見つかったらどうすんの。

芝美

ごめんなさい。

ダンボールが動く。

芝美

モッチさん？

モッチ

ちよつと返して！ 見つかるでしょー

芝美

モッチさんが鬼じゃないんですか。

モッチ

あ、トーケイさんが鬼なんですね？

まりな

トーケイまだ来てなくい。

芝美

えっ、じゃあ、だれが鬼なんですか？

モッチ

：鬼のいない隠れんぼ。

芝美

なにしてるんですか、二人とも。

モッチ

あ、いや、あんまり退屈なんで。

まりな

で、結局、一年生は？

モッチ

（「ゼロ」ってしぐさ）

まりな

え、なんでなんで？ いくらなんでも一人ぐらい：

モッチ

だって勧誘しなかったし。

まりな

えー、してよー。

芝美

勧誘のポスター描くために集合っていった日、まりなさん、来ませんでしたよね。

まりな

えー、それいつー？

モッチ

あ、あたしもバイトでパスした日だ。

まりな

モッチ、バイト決まったんだ。なに？

モッチ

お土産物屋さん。

まりな

それ、よさそー。

※芝美

私しか来なかったんですよ。

モッチ

まりなもやれば？ 前の人が急にやめたとかで人手が足りないってさ。

まりな

えー、でもあたしむきの仕事かなー。

モッチ　なに、まりな向きの仕事って。  
まりな　うふふーん。  
モッチ　あははーん。  
芝美　（せきばらい）ごほほん。  
まりな　あ、トーケイは？　トーケイはどーしたよ。  
芝美　トーケイ君はいつもの生徒会で。  
モッチ　あれで生徒会長。たよりねえー。  
まりな　じゃあ、芝美がポスターとか描いてくれたんだ？  
芝美　描きませんでした。  
モッチ　なんだそりゃ。  
まりな　まー、いーよいーよ、どーせ何もやらないゲキ部なんだからさ。勧誘なんてすることないっしょ。じゃあ、さ。今日も終わりにしない？  
シンコ　あの…  
芝美　トーケイ君まだですけど。  
モッチ　いいよ、みんな忙しいんだからさ。  
芝美　でも…  
※シンコ　あの…  
まりな　いいじゃん、いつものことじゃん  
モッチ　じゃあ、本日解散、ってことで。  
モッチ・まりな　お疲れさまでしたー！

みんな解散しかけて

シンコ　あの！  
まりな　はい？  
モッチ　あんた、一年生？  
シンコ　いいえ、あのー。  
芝美　この人、二年生よね。  
シンコ　ええ、まあ。  
まりな　思い出した。この人も演劇部員だ。  
モッチ　ええ？　あたし知らないよ。  
シンコ　ええ、まあ。  
まりな　わかった、演劇部員。よろしく。じゃあ一年後に会いましょう、じゃ。  
シンコ　部長さん！　…は、だれなんですか？

3人、それぞれ別の人を指さす。  
顔を合わせ、今度はまた別を指す。

シンコ　決まっていなくてすね。  
モッチ　だれだっというじゃん、そんなの。それとも、あんたやる？

まりな モッチー  
シンコ はい、ぜひ。  
みんな え！

シンコ 私でよろしかったら、ぜひやらせてください。

みんな固まっているところに、トーケイ登場。

トーケイ わつりい。でも俺また生徒会戻ってジュース買いに行く…あれ、あんだだれ？  
シンコ 演劇部の部長です。みなさん、これからよろしく。

音楽。

## 第二場

まりな、芝美、モッチは台本を見ている。

まりな ねえ、これなに？

芝美 キャストらしいですよ。

モッチ もうみんな決まってるの？ 信じらんない。

シンコ意気揚々と入ってくる。

シンコ さ、みなさん、もうあまり時間がありません。てきぱき行きましょう。  
まりな 時間ってなんの時間？

シンコ 6月のボランティアフェスティバルに、演劇部も参加することになりましたので。

モッチ はあ？ なにそれ。

シンコ なにってボランティアの意味ですか、それともフェスティバルですか。

まりな じゃなくって、なんでそれをあなた一人で決めるの？

シンコ あんた、ではありません。部長です。ゲキ部の部長が決めました。

まりな 部長って。

シンコ 芝美さん、あなたがヒロインの王女さまです。

芝美 王女さま…

シンコ 題して「星の王女さま」。あの名作「星の王子さま」を元に。

モッチ あんたが書いたの？

シンコ （軽くうなずき）王子を王女に、かなり大胆にアレンジしてみました。  
まりな むしろまんまじゃん。

シンコ 演劇はハート。芝美さん、ココロで☆プリンス☆を演じてください。

芝美　なんかこの人ある意味コワイ…  
まりな　あのね。

モッチ　（まりなを制して）あんたね、部長だかなんだかしらないけど。途中から入ってきてかき回してもらっちゃ困るんだけど。

シンコ　途中じゃありません。私は去年からゲキ部の一員でした。

モッチ　はあ？　名前だけの幽霊部員で？　クラブに出たことなんか、あのトーケイより少ないくせに。あたしたち、誰もあんたの名前も知らないよ。

シンコ　知らなくても結構です。部長、って呼んでもらえばいいんですから。

モッチとシンコ、にらみあう。

モッチ　じゃあ部長だっていいよ。こんなとこ、あたしは辞めるからね。

まりな　あたしも転部する。

モッチ　芝美も。

芝美　あ…うん…

トーケイ、走ってくる。

トーケイ　わりいわいい、今日生徒会のお誕生会でさー、俺買い出し頼まれちゃってー。あれ？　みんなどこ行くの？

まりな・モッチ・芝美、出ていく。

トーケイも後をついていく。

取り残されたシンコは、少しの間考えている様子だが、その後決然と出ていく。

まりなと芝美、再び登場。

芝美　ほかにはないんですか？

まりな　食物部でしょ、書道部でしょ、文芸部でしょ、美術部でしょ、写真部でしょ、漫画研でしょ…

芝美　まりなさん、そんなにたくさん転部していたんですか。

まりな　いやあ、それほどでも。

芝美　いえ、褒めてませんよ。

モッチ登場。

モッチ　まりな、どこに決まった？

まりな　どこにも。やだよね、クラブ全入制なんて。

みんな　クラブ全入制！



シンコ キンコー堂さん？

モッチ ……なんであたしのバイト先知ってんの？

シンコ さっき職員室で山本先生と話をしたんですけど…

モッチ あんた、まさか。

シンコ 先生、クラブの練習試合の相手にお土産をいつも持っていくんですって。

私、キンコー堂さんのお菓子がおいしいですよって…

モッチ あんた（あえぐ）。

トーケイ （ぬいぐるみに） そうだ。君の名前はくまチョーにしよう。ねえ、クマチョー。

シンコ なんてったって、アルバイトは禁止ですからね。

みんな アルバイト禁止！

前回と同様に、山本先生と生徒が。

生徒 教えてください、山本先生。

山本 教えてやろう。本校は原則アルバイト禁止だ。もし無断でアルバイトしているのを見つけたら…！！

生徒は恐怖のあまり逃げ出し、山本それを追う。

シンコ モッチさんが協力してくれるなら山本先生には別のお店を紹介しておきますけれども？

モッチ、がっくりとくずれおちる。

そこにまりな、泣きながら入ってくる。

まりな 野球部にも柔道部にも入部断られた…。

シンコ 芝美さんは？

芝美 私は…ヒロインですし。

シンコ これで決まりですね。

音楽。

### 第三場

劇の練習をしている女子四人。

中央にはまりなと芝美が台本を見ながらセリフを。

両端に座って見ているシンコとモッチ。

芝美 「ここはなんていう星なの？」

まりな 「君はいつたいたいどこから来たんだ？」

芝美 「ここはとっても小さな星ね」

まりな 「それは僕がここに引きこもっていることへのイヤミかい？」

「引きこもっているって何？」……ってなにこれ。

シンコ ストップストップ。

モッチ またかよ。

シンコ まりなさん、セリフちがいます。

まりな あ？ ……もうこの役やだ。

シンコ まりなさんの役じゃないんですから。

芝美 トーケイ君が来るまでです。

モッチ ねえ、相手役って、原作だとパイロットじゃないっけ？ なんで引きこもりなんだ？

シンコ そこがアレンジです。引きこもり君の六畳間は心の砂漠。その砂漠を潤す井戸を発見するのがプリンセス。

まりな 何言ってるか、ぜんぜんわかんない。

芝美 王女さまは、引きこもり君を励まして現実世界に引き戻す、っていうストーリーなんです。

モッチ ダメなところがトーケイにぴったり。

まりな 現実世界って誰？

※芝美 トーケイさんはダメじゃないです。

モッチ え？

シンコ 次、20ページからいきます。

まりな えー。(ページをめくる)

芝美 「時間が必要な」

まりな 「時間って？」

芝美 「そう、例えばこんなふうに二人で夕日を見て、明日も夕日を見て、次の日も見て、そうして時間をかけた分だけ、二人は友達になるの」

モッチ (棒読みでト書きを読む)「夕日が部屋を照らし、二人を包む。二人の心の中まで真っ赤に照らしている」……ねえ、どうしたら心の中が真っ赤なのかわかるんだ？

まりな モッチー

モッチ だってさ、これは舞台なわけでしょ？

シンコ だからここが照明さんの腕の見せ所なわけです。

モッチ だれ？

シンコ モッチさん。

モッチ むりむり、絶対むり。あたし去年なんにもやってないし、そもそも演劇のことなんてわかんないし。

シンコ 大丈夫です。私が手伝います。  
モッチ むり。

シンコ　でも少しはやってみたって気持ちがあつてこの部に入ったんですよね？ だったら。

モッチ　はあ？　なに気持ちって？

シンコ　気持ちには気持ちです。演劇って、気持ちと気持ちが、こう、あたしはあんたの友だちじゃないし。そもそもあんたがあたし達の気持ちを無視して無理矢理やらせてるんじゃない。そんな相手に気持ちとかやる気とか…とにかく期待するほうがどうかしてる！

顔を伏せるシンコ。

芝美　「友だちになるには、時間が必要なんです」

シンコ　芝美さん？

芝美　…えーと、ヒロインのセリフの練習を…

モッチ、顔をそむける。

そこにトーケイ登場。

トーケイ　チョー様参上！　あれ、みんなどうしたの？　わりい、部チョーが遅くなって。

ま、この劇では俺って主人公チョー…あれ？　主人公にはチョーがつかないな。（ぶつぶつ）

シンコ　トーケイさん、入ってください。

芝美　「だって、友だちって、あるものじゃなくてなるものでしょう。それに友だちになるには、時間が必要なの」

トーケイ　「時間って？」

芝美　「例えば、こんなふうに二人で夕日を見て、明日もあさっても…そうして時間をかけた分だけ、私たちは友だちになるの」

音楽静かに入る。

トーケイと芝美は、いい雰囲気です。

トーケイはいい気になって芝美の肩に手を回し引き寄せようとした所、芝美がトーケイをいきなり殴り倒す。

みんな　（口々に）芝美！（芝美さん！）

芝美　あ…私…ごめんなさい！

芝美、走って出て行く。

モッチ　あーらら。

トーケイ　俺？　ねえ俺のせいだったの？

シンコ　私、芝美さんのこと見えます。

シンコ後を追う。

まりな やった。今日はこれでアガリ？

トーケイ わざわざ来た俺ってなによ、なあ。

まりなとトーケイ退場。

モッチ はふと台本を手取る。

モッチ

「夕日の中の二人。空中が夕焼けだ。世界中が夕焼けだ。どこまでもどこまでも夕焼けだ！」

夕日がモッチを包む。

そして音楽。

## 第四場

トーケイ・まりな。

まりな 根本的にどっかおかしな所があると思うんだけど。

トーケイ だよな。

まりな なんでいきなり突然！ なわけ？

トーケイ そう突然！

まりな 二年生になってから唐突にやる気あふれるってどうゆうこと？

トーケイ 唐突にバチコーン！！ だもんな。

まりな ああ、芝美のこと？ それはどうでもいいわ。

トーケイ 殴られた俺はどうなの？ どうよ？

まりな あ、あたし教室に傘忘れた。取ってくるわ。

まりな出ていく。

入れ替わりに芝美入ってくる。

二人 あっ。

芝美 あの、昨日は…

トーケイ あ、あーいいんだよ。俺、気にしてないから、芝美も気にすんなって。

芝美 …

トーケイ え、なに？

芝美 私、男子に呼び捨てにされるのって（小声）ないから…

トーケイ あ、ごめん…

※芝美 ううん、そうじゃ…

シンコ登場。

シンコ おはようございます。あ、今日はトーケイさん来てますね。じゃあさっそく始めましょうか。

モッチとまりな登場。

モッチ おつはよー。おおつ、トーケイ今日は早いじゃん。あ芝美、おはよー。

芝美 おはようございます。あの、この間は…

※まりな あれー、トーケイの役、名前ついたんだー。

シンコ はい、やっぱり名前がないと不便ですから。

モッチ なに？ モリオ？

シンコ 「ひきこもり」のモリオと、「もりおか」のモリオを掛けてます。

まりな おおー。

シンコ あと「森本レオ」も。

モッチ なぜ森本レオ。

シンコ 好きなんです。

モッチ 森本レオを？

トーケイ え、俺がモリオ？ モリって苗字？

モッチ 名前が「オ」かよ。

まりな モリ、オー？

トーケイ モリ、オー！

みんな もり、もり、オー！

みんな、意味なく盛り上がる。

モッチ こんなでいいのかよ？

シンコ いいんです。演劇は、ここ（胸を指して）とここ、ですから。通じあえばそれでいいんです。

……

シンコ はいはいはい。モッチ皆さん練習始めますよ。じゃあ3場。モリオが花を飾るところです。いきます。（合図）

トーケイ 「君がまた来ると思って、花をいけたんだ。」

芝美 「モリオさん…この花は」

シンコ ストップ。トーケイさん、花はこう持ってください。いいですか？

芝美 「これは、薔薇ね」

トーケイ 「ああ…まあ当然知ってるよね。」

芝美 「私の星でも、薔薇が一本だけ咲いていたの」

芝美 ホントよ。

トーケイ ？

芝美 「あの薔薇は、自分はこの宇宙でたった一本の特別な花だっていつも自慢していたの」

芝美 「こんなにたくさん薔薇があったらどうして私の薔薇が特別だって思えるの？

「でも君は言ってたじゃないか。必要なのは時間だって。薔薇に水をあげたり、虫をはらったり、一緒にお日様をあげたり、それが特別じゃないのかい？」

芝美 「あ」

トーケイ 「どうしたの」

芝美 「こんな所にあつたのね」

トーケイ 「こんな所に」

トーケイ 「こんな所にドンブリが！」

芝美 「これがドンブリなんですね」

トーケイ 「二人でどうとうドンブリを見つけたね」

ト・芝 「砂漠のドンブリを！」

まりな ねえモッチ、この字なんて読むの？

モッチ どれ？ ああ、薔薇ね。

まりな ああ…まあ当然知ってたけど。

モッチ ホントかよ。

まりな じゃあじゃあ、これはなんて読むでしょう？

モッチ 「自慢」

まりな おおー正解。

モッチ あんたほんとに読めないでしょ。

まりな なっ、失礼な。このまりな様が読めないわけじゃないじゃん。じゃあ、なんか問題出してみてよ。なんでも書けちゃうんだから。

モッチ え、じゃあ、出すよ。いど、って書いて。水が出るいど。

まりな いど…ああ…あれね、余裕余裕。

まりな、黒板に「井」と書く。

モッチ いやいやいや、これはどんぶり。井戸はこれ。

まりな ああ…そっつかあ。まあほとんど正解、って感じ？

モッチ どこが？

まりな 感じなんて伝わればいいのよ。

モッチ いや、まりなからは井戸じゃなくて親子井とか、天井とか、食べる物しか伝わってこないって。

シンコ ストープ！ みなさん、井戸です、井戸。芝美さんまで、どうしたんですか。みんな はい…

みんな、少し静かにする。

モッチ　ねえ、三文字しりとりしない？

まりな　いいねえ、ひさびさ。じゃあどっちから行く？　インジャンする？

全員　インジャン？

山本先生と生徒、走り出る。

生徒　教えてください、山本先生。

山本　教えてください。

インジャンというのは、ジャンケンの別の言い方だ。ジャンケンの呼び方は各地方さまざまだが、その代表として、インジャンやジャンケンなどがあるのだ。わかったか？

生徒　はい。

同様に去る。

まりな　え、みんなどうしたの？

トーケイ　いや、インジャンではじめて聞いた。

芝美　私も。

まりな　え、インジャンで普通じゃん。

モッチ　ん、インジャンはどっちかっていうとインディーズじゃん？　デビュー下積み

時代みたいなの？

まりな　ああーたしかに

トーケイ　納得かよ。

まりな　でもさあ、やっぱり心も体もジャンケン？も、インディーズ時代を忘れちゃいけないと思うんだよね。

モッチ　ああーたしかに

トーケイ　お前もかよ。

モッチ　じゃあ、インジャンでやるか。

まりな　いやジャンケンでいこう。

トーケイ　どっちだよ！

シンコ　みなさん、話がずれてますよ。もうしょうがないですね。私からいきますよ、スイス！

みんな　やるのかよ！　しかもいきなりスイスって！

シンコ　はい、スイス！

芝美　え、あ、スイス

モッチ　スイス

まりな　スイス！

トーケイ　スイスー！

音楽流れる。しりとり続く。  
通りすがりの生徒１・２。

生徒１　ねえ、なんか三十分前からずっと演劇部、なんか叫んでるけど、恐くない？

生徒２　ああ、まあ、ゲキ部だもん。知らないふり知らないふり。

シンコ　スイス！

シンコ以外　だれか変えろよ。

モ・ま・芝　トーケイ（トーケイ君）

トーケイ　モッチ。

モッチ　しょうがないな。

シンコ　スイス！

モッチ　スイカ！

まりな　カラシ！

トーケイ　シラス！

シンコ　スイス！

モ・ま・芝　トーケイ！

モッチ　イチ抜けた！

まりな　あ、あたしも。

トーケイ　あ、じゃあ俺も。

芝美　あ、私も…

シンコ　芝美さん、二人でがんばりましょう。

芝美　え？

シンコ　はい、いきますよ、スイス！

芝美　え、あ、う、スイス

モッチ　芝美、…がんば！

トーケイ　あ、なあなあ、今日サーティワン募金したらアイスもらえるんだってさ。

まりな　え、ほんと？　１円でもOK？

トーケイ　おう、とにかく募金すればいいんだってさ。今からいかね？

まりな　行く行く。モッチも行くっしょ？

モッチ　あつたり前じゃん。

三人　お疲れ様でしたー！

芝美　え、あの！　みなさん？

三人去る。

シンコ　芝美さん、はい、スイス！

芝美　あゝもう、スイス。

音楽。

## 第五場

モッチが机に向かっている。

モッチ

「最後に一言：例えば空を見上げたとき、そこに星が…」空かあ…

シンコ登場。

シンコ

おはようございます。

モッチ、あわてて机の上を隠す。

シンコ

何ですか？

モッチ

いや、何でも…

シンコ

照明のプラン図ですね？

モッチ

いや、あんまり何にもわからないから少し勉強しようかなあーと…（小声に）

シンコ

モッチさん。

モッチ

いや、大失敗しちゃうかもあたし不器用だし。

シンコ

いいんです、失敗しても大事なものは、ここ（胸に）ですから。

まりな、傘をふりながら登場。

まりな

あれー？ トーケイ来てない？ さっきまで一緒だったんだけど。

シンコ

まりなさん、また代役ですね。

モッチ

そろそろセリフ覚えたんじゃない？

まりな

いや、それが不思議なほど全く！

モッチ

なにそれ。

まりな

アドリブの女ですから。（自慢げ）

シンコ

芝美さんが来たら始めますよ。

モッチ

遅れんのめずらしいな。

芝美、ゆっくりと入ってくる。

シンコ

あ、芝美さん。じゃあ始めます。

動かない芝美。

まりな

どうしたの？

芝美

ごめんなさい！

雨音が高くなる。

芝美は去り、雨音が低くなると、三人が立っている。

モッチ　しょうがないよ、芝美の夢だったんだから。

まりな　ずっと留学したいって言ってたもんね、カッコイイなあ、アメリカ留学かあ。

モッチ　次、次があるって、次の機会にってことで。

まりなとモッチ、立ち上がる。

シンコ　やります！

二人　え？

シンコ　予定通り、ボランティアフェスティバルの日に。

モッチ　だって芝美が出られないんだよ。いくら出発は午後だって言っても：

シンコ　代役を立てます。

モッチ　だれ？

シンコ　まりなさん。

まりな　へ？　ムリ！　だってムリ！

モッチ　ムリだよ。まりなの記憶力知ってるだろ。

シンコ　じゃあ。

モッチ　じゃあ、じゃないよ。なんだよそれ。なんか少し見直して損した。

まりな　いつの間に見直してたの？

モッチ　せっかくみんなで練習したんだから、この劇みんなでやりたいじゃん。一人でも

欠けたら意味ないって。みんなで！　精一杯やればいい！　って言ったのはそっ

ちでしょうが。

シンコ　精一杯やるからやるんです。

モッチ　ワケわかんない。

まりな　ま、現実問題、もう一週間もないわけで、うちらの中でセリフ全部言える人もい

ないわけだし。

シンコ　今やらなきゃダメなんです！

モッチ　なに今って？　イイじゃん、たかが。

シンコ　王女さまを三人にしましょう。

モッチ　はあ？

シンコ　ヒロインを三人にして、セリフも三つに分けるんです。モッチさんとまりなさん

と私で。そうすれば一人あたりのセリフも。

まりな　えー。

モッチ　あんたね、ヒロインが三人なんて、頭どうかしてるんじゃないの？

シンコ　何を言われようと、これは決定です。

モッチ　できっこないね。

シンコ　絶対やります。

二人、にらみあう。

その後モッチは離れてイスに座る。

シンコは台本を直し始める。

モッチは糸電話をとり、まりなに話しかける。

モッチ この部長とかいう奴、マジむかつくんだけど。

シンコ モッチさん。

モッチ 何ですか？

シンコ 文句があるなら直接言ってもらえます？

モッチ あれ？ 聞こえました？ でも人の電話、聞かないでももらえます？ プライバシ

ーの侵害ですから。

シンコ 別に電話を聞いたワケじゃないんですよ。女のカン、ってやつかしら。

モッチ あらゝそうなの？ ごめんなさい。でもなんか、盗み聞き好きそうな感じがしたから。

シンコ あゝら偶然。私もなんか陰口が好きそうに見えたから、こうピンって感じちゃって…

二人、不気味な笑い。

まりな ねえ！ なんかこんなの悲しくない？ せっかくやっと演劇部らしくなったんだ

から…ねえ！

モッチ、出ていきかけると入れ違いでトーケイが。

トーケイ おまたせ！

モッチ、トーケイを殴り退場。

トーケイ 何じゃこりゃー！

トーケイ倒れる。

まりなはモッチの後を追う。

その後、トーケイは息を吹き返す。

トーケイ …ここはどこ？ あたしは誰？

トーケイ、叫びながら出ていく。

雨音が高くなる。

一人残されたシンコは座ったまま、

やがて決然と仕事をはじめ。

## 第六場

窓の外を傘をさした四人がそれぞれ通っていく。  
シンコはやはり一人である。  
照明、暗くなる。

ボラフェス本番の日。  
ステージ裏にはシンコが一人。  
拍手や客席のざわめき。  
シンコは上手側をたびたび見る。  
あきらめかけたところに、まりながモッチをひきずりながら登場。

シンコ　まりなさん、モッチさん？

まりな　もしかして本番を一人でやるつもりかもって：

モッチ　ちがうってば、あたしがここに来たのはあんたの弱みがわかったからで。

まりな　弱み？

モッチ　あんたが前にあたしを脅迫したネタね。

シンコ　脅迫なんてしましたっけ？

モッチ　変だと思ったんだよ。ローソンやマックならともかく、キンコー堂なんてマイナ

ーなお店を知ってるなんて。

シンコ　ああ：

モッチ　キンコー堂で、あたしの前にバイトしてたの、あんただったんでしょ、去年一年。

まりな　そうなの？

モッチ　去年クラブに出なかったのもずっとバイトしてたからよね。毎日お店に出てたって。  
ということは。

まりな　とうぜん校則違反、とうぜん生徒指導。

モッチ　生徒指導！

みんな

問

まりな　あれ？

モッチ　なにになに？

まりな　なんか物足りなくくない？

トーケイ登場。

トーケイ 代わりに俺が。そうはならないみたいだよーん。こいつは去年正式に許可を取ってバイトしてたんだって。

モッチ トーケイ…おせえよ！ 遅れてきてゴメンもなしかよ！

トーケイ ご、ごめんなさい。

まりな でも、どうして許可なんて取れんの？

トーケイ まあよっぽどの場合だけだね、その…よっぽど…

シンコ 経済的に困窮している場合。

まりな なにそれ？

シンコ うちがビンボーでビンボーでどうしようもないってことです。…うち、商売やってて…うまくいってなかったんです。家計の足しにずっとバイトしてたけど、な

んにもならなくて。とうとうこの間倒産してしまったんです。家族も、母親の実家の方に引っ越すことになって、私も高校辞めなきゃならなくて…

まりな 高校辞めるの？

シンコ 夏休み入る前には…

モッチ だから？

トーケイ だから。

まりな だから。

シンコ だから！

舞台の開幕を告げるブザー。

まりな はじまっちゃう！

モッチ え、どうすんの？

シンコ いくつかの計画どおりでいきます。トーケイさんはそのまま、私たち三人はヒロインのセリフを少しずつ。覚えている分を補い合っていきましょう。

モッチ しょうがねえなあいくよ、まりな。

まりな あーたーしー、むりー！

四人はステージの上へ。

トーケイ ねえ、プリンセス。

まりな なに？ モリオさん。

トーケイ こんな僕でも君は友だちになってくれるんだね？

まりな まあ何をいうの、モリオさん、私たちはもう友だちだわ。

トーケイ 僕、今まで友だちがいたことがないんだ。

まりな 私、思うんだけど、きっと、たぶん…あれ？

モッチとチェンジ。

モッチ 私、思うんだけど友だちはいるものじゃなくて、なるものでしょう？

トーケイ ああそうだね、プリンセス。君はいったいどうしてこの星に来たんだい？  
モッチ あたし？ あたしは、あたしは、えーと…  
トーケイ この星に。  
モッチ この星に。

シンコにチェンジ。

シンコ 私はこの星に井戸をさがしに来たの。砂漠に水を潤す私の井戸を。  
トーケイ 僕もいっしょに探すよ！

三人 ありがとう、モリオさん！

三人 あ、あの…

トーケイ 三人いっぺんには聞けないよ。まずはプリンセスAから。

まりな あの、さっきから、パンツが見えてて。その。

トーケイ え？ あ、ああ、ごめんごめん。え、それだけ？

まりな はい。

トーケイ ははは、じゃあプリンセスBは？

モッチ あの、その、パンツが。

トーケイ 君も？ あははは…もしかしてプリンセスCも？

シンコ いえ、私は。

トーケイ だよね…。さ、何でも言ってよ、なに？

シンコ あの…社会の窓が！

トーケイ 同じじゃーん！

音楽。

トーケイ、ステージ上で告白したり悩んだりする演技。

トーケイ 「僕は外に出て行くことがこわい、ダメ男なんだ…！」

三人はステージ裏で疲れ果てている。

まりな 何とかラストまでたどりついた。（ハアハア）

シンコ これから王女さまはモリオに最後のメッセージを伝えて、星に帰ります。

モッチ あたし、最後のセリフほとんど入ってない。

まりな えーモッチが頼りなのにー。

まりな 部長！

シンコ ここはやっぱり作者が（にっこり）…全然覚えてません。

ま・モ 部長…！

トーケイ 「僕はやっぱりダメだ…！」

三人仕方なくステージに飛び出る。

トーケイ あー、消えたんじゃないかなかったんだね、プリンセス。

モッチ あたし？ あたし、この手の男って：ほっておいたらどう？

ま・シ そう言わずにー。

モッチ えーと、最後に一言、えーと、伝えておくことがあります。

トーケイ 「最後？」

モッチ えーと、外の世界はいやなことがいっぱいかもしれないけど、（小声で）何言えばいいんだよ？

シンコ なにか、励ますようなことを。

まりな なにか。

モッチ なにか：考えたんだけど、人と人ってぶつからなきゃはじまらないっていうか、こわくても一歩進んでみる、っていうか：例えばあたしね、最初はね、ほんとはね、入部したときは、演劇：そう演劇をやりたいくてゲキ部に入ったんだ。クラブをちゃんとやろうと思っていた。でも入ってみたら、先輩とか同級生もいいかげんでやる気もなくって、遊んでる感じで、あたしもだんだんそれに慣れて、で、みんなと遊びに行ったり、フツの女子高生っぽい生活で、これも楽しいって、自分に納得させて：。だから余計に腹を建てたんだ。突然劇やるなんて言われて、かき乱されて、勝手に：

シンコ モッチさん：

まりな モッチ：

モッチ でもね！ やってみなきゃはじまらないんだよ、何でも。（トーケイに）「それを覚えておいて！」（シンコに）タッチ。

トーケイ 少し説得されたかも：「でも僕はやっぱりこわいんだー」

シンコ 私：私：

モ・ま 部長！

シンコ 私：心残りがあったんです。ずっとバイト潰けだったから、高校生らしい高校生活をしてないんです。振り返ったら、学校での思い出って何も無い：。クラブにも全然出られなかったし。でも一度：最後に一度でいいから、何か、ここ（胸に）に残るようなことしたかったんです。だからみんなに無理を言ってしまったて：。でも気づいたことがあるんです。一人だけじゃなにも残せないんだって。（トーケイに）「それを覚えていてほしいの！」（まりなに）はいタッチ。

あと少しだ。「でも僕はやっぱりこわいんだー」

トーケイ まりな！

シンコ まりなさん！

まりな 外だよ、外。外、外に：（ねばる）

モ・シ 外。

まりな 外っていうより！

モ・シ へ？

まりな まん中！！ ステージのどまんなか！ やってるうちにこれ、どんどん楽しくなってきた。ステージのまん中で、スポットライトをあびて！（トーケイをおしやり中央に立つ）ヒロインってゆーの？ あ、主人チョーだ。これってサイコー！

トーケイ、まりなを思いっきり突きとばす。

トーケイ 主人チョーは俺だ！ 俺様が主人チョーだ、ざまあみろ！ あ（気づいて）しまったー。

シンコ達、顔を寄せて。

モッチ どうすんだよ。三人終わっても話が終わらないよ  
シンコ ごめんなさい。

モッチ 部長のせいじゃないよ、何とか…

※シンコ そうじゃなくて、みなさんの本当の気持ち…

モッチ あんた、顔のわりにはいいやつね。

シンコ モッチさんも。

モッチ この前はホントのこと言ってごめん。

シンコ 私も。この前は心の底から思ってることを口に出してしまっただけにごめんなさい。

モッチ いいんだよ。みんな水に流して仲良くしようよ。

シンコ あたしたち仲良くなれそうですね。

三人 熱くなりきったところで。

トーケイ 「僕はもういいんだー！」  
三人 あ。

そこに芝美が。ステージの上へ。

みんな 芝美（芝美さん）

トーケイ おープリンセス、君こそ最後のプリンセスだ。

芝美 モリオさん、覚えておいてほしいの。本当のことは目に見えないってことを。例えば、私の星に残してきた薔薇の花…大切なのは、星を見上げたとき、そこに薔薇がいるって信じること。信じれば星はとても美しい。

トーケイ 本当のことは目に見えない…

芝美 私は星に帰ります。だから、本当のことを言います。

トーケイ 本当のこと、

芝美 トーケイ君、私、トーケイ君のこと、大好き！

全員 ええっ！！

音楽。

舞台は部室に。

一人ずつ動きだし、部室から出て行く。

## 第七場

同じ部室だが、なにかが変わっている。

チャイム・ざわめきの音。

劇部員たちが入ってくる。

かばんを置きジャージに着替え再び出ていく。

そして大人になったモッチが。

モッチ

あれからもう八年がたちました。今はもうみんなそれぞれの道を歩いています。トーケイと芝美はあれ以来つきあい始めて…でもすぐ別れてしまっ…またつきあって…別れて…の繰り返しで、結婚するんだかしらないんだか、しょっちゅうもめてます。

まりなは、劇団の女優さんです。ぜんぜん売れてないけど、一生懸命頑張ってます。

部長は…あ、トーケイでなくって、あたし達の本当の部長の方は、いまどうしているか…遠くに行っちゃってしまっ…から会っていません。でも会えなくても、きっと部長は大丈夫。「星を見上げて。そこにあなたがいると信じれば星はこんなに美しい」そして、あたしは！

学校のざわざわ音。

声

ア・エ・イ・ウ・エ・オ・ア・オ

…

モッチ

いま高校の先生です。

ゲキ部の顧問やっています！

音楽。

幕――

【参考資料1】

ボラフェスの出演団体一覧

- ① 太田児童会 「こども太鼓」
- ② どんぐり会 「どんぐりママのコラス」
- ③ 盛岡高校演劇部 「劇・星の王子さま」
- ④ 太田中学生徒会 「マジックショー」
- ⑤ ゲートボールサークル・チワワン 「フラダンス」
- ⑥ 盛岡三地区町内会 「全体合唱」

【参考資料2】

別紙：脚本「星の王子さま」（作・二宮）

〈おねがい〉

この戯曲は、「佐藤かつら戯曲館」への掲載にあたり記号の表記などを一部改めて打ち直し、体裁を整えたものです。ダウンロードして練習脚本などとしてお使いいただくことができます。実際に上演される際は「佐藤かつら戯曲館」ホームページにあります「上演を検討される方へ」をお読みの上、ご連絡ください。